



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

糖尿病症例の予後改善へ必要なこと

[当法人評議員]

吉祥寺・藤田クリニック

藤田 進彦 [医師]

2016年日本糖尿病学会は日本における糖尿病患者の死因を新たに報告しました。この報告は、1971年より10年に1回報告されております。今回は2001～2010年の期間で、4回目の報告でした。糖尿病患者の死因の第1位は、がん(38.3%)。第2位は、感染症(17.9%)。そして第3位が血管障害(虚血性心疾患、脳血管障害、腎不全)(14.9%)でした。第1回(1971～1980)、第2回(1981～1990)の報告時には、死因の第1位が血管障害でしたが(第1回:41.5%、第2回:39.3%)、今回は第3位まで低下しました。また、平均寿命も伸び、第1回目報告と比較すると男性は63.1から71.4歳へ8.3歳伸び、女性は64.9から75.1歳10.2歳伸びております。その伸びは一般人(男性:73.4から79.6歳と6.2歳の伸び、女性:78.9から86.3と7.4歳の伸び)と比較しても大きかったのです。このことは、血管障害に対する急性期治療、慢性期治療の進歩とともに、糖尿病治療がよくなったことを裏付けるものでした。糖尿病治療に携わる医療従事者としてはうれしい限りです。しかし、日常の診療で感じることは、糖尿病症例のなかで、合併症(網膜症、腎症)の進行している症例の多くは、糖尿病発症から治療を放置していた症例で、視力低下により眼科受診して糖尿病網膜症を指摘された症例や、下腿浮腫を機に進行した糖尿病性腎症を診断されるような症例です。私が最近経験したのは、数年～十数年前に健康診断を受けて糖尿病を指摘されながら治療を受けていなかった50歳男性です。奥様と小学校1年生の息子さんと3人家族で、常連さんも多い人気の弁当屋を経営しておりました。1年前に右腹痛で受診した病院にてHbA1c13.1%、随時血糖261mg/dLを認めて糖尿病と診断され、すぐに当院を紹介受診されました。25歳時に健診で尿糖を指摘されましたが受診せず、46歳時に糖尿病と診断されても未治療のまま4年が経過しておりました。当院紹介時、すでにCre1.55mg/dL(eGFR 36.7)、尿蛋白7.0g/g・Creと糖尿病性腎症3期まで進行。治療を開始して、血糖コントロールが改善したのちも腎症はさらに進行し、透析導入に至りました。診察室では治療を受けても状況が改善しないことには、医療不信と思えるような言動もありました。透析開始後は、弁当屋も廃業すると決めたそうです。糖尿病発症早期から治療開始していれば合併症発症にいたらず現状の生活を維持できていたのではないかと残念です。平成28年国民健康・栄養調査の結果、「糖尿病が強く疑われる者」のうち、40歳代の男性では48.5%が治療を受けていないとの報告でした。仕事で忙しいから、体調が良いからとの理由があります。糖尿病症例の予後改善には、このような症例を早期に継続的な糖尿病治療へ導くかが鍵であると思います。糖尿病の啓蒙とともに、就労と糖尿病治療が両立する支援体制の確立が喫緊の課題です。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 血糖自己測定(SMBG)や持続血糖モニター(CGM)について誤っているのはどれか、2つ選べ。
(答えは7ページにあります。)

1. SMBG機器は患者自身が測定する血糖モニタリングを目的として使用されるものである
2. SMBGの意義、手技、活用法について十分な指導が必要である
3. SMBG測定時の穿刺器具について複数の患者間で使い回しをしない
4. 全てのCGM機器はSMBG校正が必要である
5. CGMは血中のグルコース濃度を直接・連続的に測定できるシステムである



報告

第36回武蔵野糖尿病研究会

日時:令和元年6月1日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

[当法人業務執行理事] 代表世話人 かの内科 菅野 一男 [医師]



菅野先生

令和元年6月1日(土)国立さくらホールにて、『第36回武蔵野糖尿病研究会』が「肝疾患とGLP-1受容体作動薬」をテーマに開催されました。

基調講演は、私菅野より『肝がんを合併した2例について』と題し、糖尿病に高頻度で合併するNAFLDやNASHから進展する肝臓がんについて、その発症因子、そしてNAFLD、NASHへ有効な治療薬としてGLP-1受容体作動薬とSGLT-2阻害薬が体重減量効果と、肝線維化進展抑制の可能性を秘めた治療として2例の実症例を交え紹介致しました。特別講演は、武蔵野赤十字病院 消化器科 部長 黒崎 雅之先生より『糖尿病に合併しやすい消化器疾患～非アルコール性脂肪肝・肝がんから膵がんまで～』と題し、肝疾患の種類と、それぞれの疾患の特徴に疫学、スクリーニング方法や治療法を解説頂きました。黒崎先生からのメッセージとして、糖尿病と肝疾患は密接に絡み合っており、糖尿病治療薬としてのSGLT

-2阻害薬やGLP-1受容体作動薬が肝疾患にも有益な治療薬となり得る上、早期発見が困難である消化器疾患を糖尿病診療においていかに早期発見する事が大事かを切実に問うて頂きました。

当日は医師、看護師、薬剤師、栄養士等、様々な職種の先生方合わせて39名がご参加された上、質疑応答でも活発な意見交換がなされ、大変有意義な会となりました。なお、次回第37回武蔵野糖尿病研究会は2019年12月14日(土)三鷹産業プラザにて開催致します。テーマは『血糖変動』と題し、基調講演を私菅野が務め、特別講演に東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 西村理明先生をお招き致します。皆様のご参加をお待ちしております。



報告

西東京CDEの会 第18回例会

日時:令和元年6月29日(土)

場所:府中市立ひばりホール

[当法人会員] 実行委員 杏林大学医学部付属病院 鈴木 光一 [臨床検査技師]

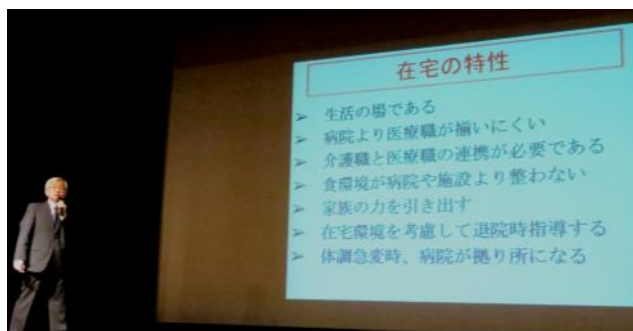
6月29日(土)に「西東京CDEの会 第18回例会」が府中市立中央文化センターひばりホールにて開催されました。今回のテーマは「糖尿病の在宅支援を考える」ということで、密度の濃い内容となりました。

第一部基調講演は東京都多摩府中保健所 歯科保健担当課長 五十里一秋先生に「超高齢社会と在宅療養 CDEの役割と課題」と題し、特に多摩地域の高齢者糖尿病患者の実際を数値化して、今後の課題とCDEはどのように地域で活躍していけばよいか、をご講演いただきました。「病院と在宅支援の職種が病院と在宅の特性を相互に理解し、地域の高齢者の生活を支えていく時代がきている。」と締めくくられました。

第二部カテゴリー発表は、1.管理栄養士 和田先生から、サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドローム対策、摂食嚥下障害を中心にこれから何ができるのか、2.薬剤師 宮前先生から、薬物療法を継続していく現状と課題について、3.看護師 下田先生から、生活習慣病予防や重症化予防において関わる現状と課題について、4.臨床検査技師 鈴木から、技師から見た在宅介護の現状と小型化された装置などを使った検査が現場で活躍する展望を、5.理学療法士 水谷先生から、在宅での具体的な運動指導を受ける機会が少ないという現状と展望について示していただきました。

第三部モバイルdeアンサーでは「地域・在宅でCDEとして何ができるか?」と題し、ディスカッションを行いました。少人数でも多くの質問が出て、充実した例会となりました。

五十里先生



報告

2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時: 令和元年7月28日(日)
場所: 北里大学

第16回 西東京教育看護研修会

[当法人会員] 総合司会
熊倉医院 塚本 万里子 [看護師]

令和元年7月28日、西東京糖尿病療養指導プログラムが開催されました。受講者の要望を受け、今年度はサテライト会場を設けた企画となりました。教育看護系は323名の参加がありました。



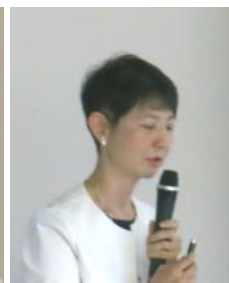
荒木先生



今野先生



寺島先生



北谷先生

今年度のメインテーマ「超高齢時代の糖尿病療養支援を考える」の基調講演では、東京都健康長寿医療センターの荒木 厚先生より“高齢者糖尿病の療養指導のポイント”と題し、高齢者糖尿病の特徴を踏まえ「老年症候群の予防も目的に加える」というお話がありました。機能評価(DASC 8)を適時行うことの必要性や、食事、運動、薬物療法の注意点、社会サポートについても実践で活用できる学びを得ました。今野真希先生からは“高齢糖尿病患者の看護”について療養環境が変化した背景を多面的にとらえ、QOL・余命・生活に合わせた支援や、自宅でのサポート体制を早期から考えることを学びました。

午後の部は、“糖尿病患者の生活の質を考えたケア～糖尿病患者の口腔内環境と加齢に伴う変化～”というテーマで、杏林大学保健学部の寺島涼子先生より、歯周病になると咀嚼嚥下機能が低下するために療養者への食生活指導が難しくなり、糖尿病と共に生活する療養者にとって、生活や生命が負のスパイラルへ陥る危険があること。複雑な口腔内環境から治療・予防に至るまでをご講義いただきました。最後に、小柳貴子先生の“糖尿病患者さんの意思決定支援”の事例を北谷真子先生、植木彬夫先生をコメンテーターに迎え進行了。会場全体が一瞬にして集中し共有していました。看護のやりがい、醍醐味が伝わる素晴らしい内容だったと大変好評でした。



- 😊 高齢の糖尿病患者が増えてきており、対応や指導に困ることも多かったため、今日の研修会はとても参考になった。
- 😊 「医療学」という言葉を初めて知りましたが、興味深く伺いました。
- 😊 口腔機能低下については知らないことが多くあったので、評価の仕方など教えていただけて参考になりました。

- 😊 日々の療養指導を振り返ったり、新たに学んだり確認したりすることができた。ひとりひとりの患者様、その家族と関わっていくことは大切であると改めて感じた。
- 😊 時代に即した内容で、興味深く参加することができました。明日からの療養指導に生かせそうです。事例もとても勉強になりました。
- 😊 認知症と血糖コントロール、口腔との相互関係が高齢者の糖尿病治療に大切ということ、丁寧に深く教えていただきました。
- 😊 今回の研修会の最後に講義して下さった事例検討は、とてもためになりました。事例検討があると、とても勉強になります。
- 😊 携帯を使ってコメントや質問できるのはとても便利で良かったです。

報告

2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:令和元年7月28日(日)

場所:北里大学

第16回 西東京病態栄養研修会

[当法人会員] 総合司会

東京医科大学八王子医療センター 永田 美和 [管理栄養士]

7月28日、梅雨が明けた盛夏の中、西東京糖尿病療養指導プログラム病態栄養研修会が開催されました。今回は、透析導入の原因疾患第一位である糖尿病腎症についての理解を深め、その進行を抑制できる療養指導を目指すことをテーマにプログラムを作成し開催いたしました。午前の部1では、東京医科大学第三内科 名誉教授 植木彬夫先生より「糖尿病腎症のメカニズムと検査値の読み方」について、午前の部2では、北里大学薬学部薬物治療学3教室 講師 井上岳先生より「糖尿病の薬物療法アップデート～糖尿病腎症の進展阻止の可能性～」について、私たち管理栄養士が療養指導時に必要な基礎知識や概念、最新の情報など、詳細にわかりやすくご講演頂きました。午後の部1では、金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 古家大祐先生をお招きし、「糖尿病性腎臓病 保存期の食事療法」について、また、東京医科大学 腎臓内科学分野 長井美穂先生より「糖尿病腎症 腎代替期の食事療法」についてのご講演と、午後の部2では、コントラバース形式にて「高齢者のたんぱく制限の是非について」を両先生にご登壇いただき会場の皆さんと一緒に話し合いました。高齢者の糖尿病腎症の食事療法については、まだゴールデンスタンダードは確立されておらず明確な回答はない現状がありました。現時点においては、患者さん個々に応じた食事療法を適正に行うことが必要であり、各々の先生よりそのためのヒントを得ることができたのではないかと思います。



植木先生



井上先生



長井先生

古家先生



- 😊 腎症について知りたいことが多くあり、今回のセミナーでたくさんのお話を伺う事ができて大変参考になりました。
- 😊 たんぱく制限食について、メオチニンのところが知れてよかった。
- 😊 栄養研修会はとても得るものが多く有意義でした。実際の患者さんの指導や状況もわかり良かったです。
- 😊 基本的な部分の説明があり、理解が深まりました。なかなか日常の中で学ぶ時間がないので、新しい情報の話は大変意義があります。ありがとうございました。
- 😊 現場で携わる内容には腎の専門的な症例はもっていないので自身の経験と照らす部分はなかったが腎の基礎から指針の知見まで勉強できてよかった。
- 😊 腎症の蛋白制限の改定について、今後すぐに参考にできて仕事に役立てることができると思いました。

報告

2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:令和元年7月28日(日)

場所:北里大学

第16回 西東京薬剤研修会

[当法人会員] 総合司会

アストロ薬局 波田 博文 [薬剤師]

薬剤研修会 午前の部1では、東京医科大学八王子医療センター 天川淑宏先生より、運動について、その効果を薬のように機序をわかりやすく説明していただきました。公演中には一緒に体を動かして、その効果を実感しながら運動の大切さを感じることができました。午前の部2では、医療法人社団ユスタヴィア 理事長 宮川高一先生より、災害時に薬剤師がどのように行動すべきか、という話から、糖尿病の治療薬についてまでその違いとともにお話しいただきました。同効薬についても違いがあることなども勉強させていただきました。午後の部1では、フローラ薬局 代表取締役 篠原久仁子先生より、医療連携を行うことが患者の利益になるということを実践例にてご紹介していただきました。ポリファーマシー対策についても、一緒に考えさせていただきました。午後の部2では、杏林大学医学部付属病院 小林庸子先生より、妊娠糖尿病についてお話いただき、妊娠糖尿病だった症例に対してどんなアプローチができるのか、何かできることがあるのではないかと



天川先生



宮川先生

質問を投げかけてもらい、一緒に考えることができました。最後に、モバイルdeアンサーを使い意見交換を行うことで、本日の研修内容の理解もより深まったように感じられました。



- ☺ 他職種の内容を薬剤師にもわかりやすく現場で使える内容だったため、とても勉強になりました。
- ☺ 運動の話、災害の話、大変参考になりました。日々の業務にいかしていきたいと思います。

第4回 西東京臨床検査研修会

[当法人評議員] 総合司会

公立昭和病院 櫻井 勉 [臨床検査技師]

7月28日(日)北里大学薬学部白金キャンパスにて第4回西東京臨床検査研修会が開催されました。今回の研修会は今後増えるであろう「認知症」にスポットを当てた研修会としました。

講演は、基調講演として東京医科大学高齢診療科の櫻井博文先生に「糖尿病と認知症」についてお話し頂き、成因や症状早期発見の大切さを学ばせて頂きました。次に三井記念病院の松熊美千代先生に日本臨床衛生検査技師会が行っている認定認知症領域検査技師制度についてお話し頂きました。現在300名以上の資格取得者がいて認知症に係わる種々の検査への関わり方を詳しく話して頂きました。午後は認知症患者さんへの接し方のポイントとして公立昭和病院の認知症看護認定看護師である、中澤育子先生に長谷川式認知スケールやMMSE、MOCA-J、DASC-8などについて説明を聞いた後、参加者同士で模擬検査を行いながら会話の注意点などを説明して頂きました。また引き続き日本光電の山田康裕先生に「物忘れ相談プログラム」という客観的な診断装置について感度や特異度の話をして頂きました。最後のセッションは臨床検査技師が一番関わる事の多いSMBGとその重要性について杏林大学の近藤琢磨先生にお話し頂きました。超高齢者や認知症など患者さんそれぞれによりコントロール目標を個別化していく必要があり、SMBGによる血糖測定がそのための重要なツールになることが再認識されました。最後の光トポグラフィ装置の認知症領域への可能性は更なる研究が必要そうに感じました。臨床検査技師が糖尿病患者さんと療養指導の中で接する時間は比較的短く、変化に気づくことが難しいかもしれませんが、早期に患者さんの変化を捉え適切な検査を行う事で認知症を併せ持つ糖尿病患者さんが著しく増えないようにしなければならぬと強く感じた研修会でした。



- ☺ 糖尿病の患者様も高齢者が増えているので今回のテーマはとても勉強になりました。先生方の貴重なお話ありがとうございました。
- ☺ 認知症に限らずDM患者への現在の医療現場の様子、またデータの見方、資料と講演と充実した一日となりました。

少し専門性の高い内容にしすぎたのか参加者が少なかったのが反省されます。

報告

2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:令和元年7月28日(日)

場所:北里大学

第4回 西東京運動療法研修会

[当法人会員] 総合司会

広瀬病院 永田 昌宏 [理学療法士]

第4回西東京運動療法研修会は、午前の部、午後の部ともに3演題とパネルディスカッションが行われました。午前の部では、児玉優太先生に「腎症重症化予防の取り組みとその背景」として、糖尿病性腎症重症化予防プログラムや腎症に対する運動療法の概略について講演して頂きました。高木由利先生に「腎症重症化予防における臨床的意義とは～糖尿病性腎症を悪化させない人生を!～」として、腎臓の基礎知識と腎症の進展抑制における食事療法の重要性について講演をして頂きました。大平雅美先生に「腎症重症化予防における運動療法の意義とは」として、糖尿病性腎症の様々な研究を踏まえた運動療法の歴史と捉え方を講演して頂きました。パネルディスカッションでは「腎症重症化予防～課題と期待～」について、午前の部の演者と参加者で午前の講義の内容を踏まえた討論が行われました。午後の部では、小池日登美先生に「運動療法の実践～腎症1・2期～」、水谷健先生に「運動療法の実践～腎症3・4期～」、福島由香里先生に「腎症重症化予防の食事療法」として、臨床経験を踏まえた実践的な内容を講演して頂きました。パネルディスカッションでは福島由香里先生、井上岳先生、天川淑宏先生に「腎症重症化予防～食事、薬物、運動のInteraction～」をテーマに、提示された1症例に対して栄養士、薬剤師、理学療法士の立場から、食事療法および薬物療法と運動療法との相互作用についての検討が行われました。



大平先生

児玉先生

高木先生

腎症重症化予防を目的とした運動指導に関わっている専門職は数少ないのが現状と思われますが、68名が参加しました。糖尿病性腎症を基礎から治療まで幅広く学び、運動療法の指導において必要な視点と、現時点で不足しているものが明確に示され、有意義な研修会となりました。



😊 大変有意義な研修会でした。ありがとうございました。

😊 初めて糖尿病を学ぶ方にも分かりやすく作ってくださったと思います。

フリーコース(5分科会自由受講)

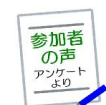
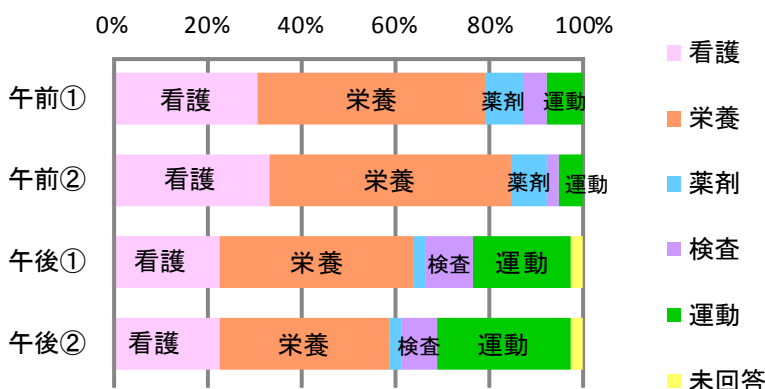
今年度は、51名の方がフリーコースに参加されました。

<参加者職種内訳>

職種	人数
(准・正)看護師	22
(管理)栄養士	18
薬剤師	6
臨床検査技師	2
医師	1
その他	2
計	51名

<参加した研修会>

※回答者数:39名



😊 興味のある講義をピックアップして聴講でき、とても有意義でした。

😊 初めてのフリーコース参加でしたが、他職種の講義も大変勉強になりました。





第8回日本くすりと糖尿病学会学術集会

令和元年9月7日(土)～8日(日)

札幌コンベンションセンター

〔当法人会員〕

東京証券業健康保険組合診療所

井上 享子〔薬剤師〕

9月7日・8日に札幌コンベンションセンターにおいて、第8回日本くすりと糖尿病学会学術集会が開催されました。テーマは「患者と共創る(つくる)薬物療法から自分らしく生きるために～」でした。共創とは「コ・クリエーション(Co-Creation)」の訳語として、商品開発や組織改革に関わる人達の間で使われてきた言葉ですが、多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を共に創り上げていくこととして、現在は広く使われるようになっていきます。この言葉をテーマに使ったことから、大会長の人柄がわかります。

大会長の中野玲子先生は、札幌の糖尿病を専門とする萬田記念病院の薬局長です。今回の大会は大会長の勤務する病院が全面的に協力し、ポスター会場の一角にマンダカフェと称して医師や栄養士などの仲間が様々なショートセッションを楽しく聞かせてくれました。「ハイリスク薬としての糖尿病治療薬の安全管理」、「メディア情報の読み解き方」など、薬剤師として重要な視点を取り上げたセッションのほか、教育講演では「1型糖尿病と2型糖尿病-何が同じで何が違うのか-」、「忘れてはいけない内分泌疾患のはなし」など、重要なテーマの講演が多く、どれも興味深く聞くことができました。長年糖尿病と深く関わってきた大会長ならではの企画であったと思います。また、自己注射・SMBG体験コーナーでは硬結のモデルも置かれており、患者さんに直に触れる機会のない薬剤師からは貴重な経験であったとの感想も聞きました。予告なしに行われる「突撃！糖尿病グリラボ教室」では驚くと共に、内容の面白さに多くの人が足を止めて聞き入っていました。ディベートセッションの「将来目指すならどちら？薬学部教授vs.薬剤部長」では、日本くすりと糖尿病学会理事長である北里大学の厚田幸一郎先生の「両方やってますが」に、会場は爆笑に包まれました。



北海道という地での開催でしたが、900人を超える多数の参加者で、どの会場も活気に溢れていました。来年の学術集会は7月18・19日に大阪で開催されます。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 4, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. ○
2. ○
3. ○
4. × SMBG校正が不要な機種もある。
5. × CGMは皮下の組織間質液中のグルコース濃度を連続的に測定し、血糖値に換算して記録するシステムである。



研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

◆ 第12回 ブルーライトアップ - スカイトワー西東京 -

申込必要

開催日：2019年11月9日（土）15:45～18:00（開場：15:15）
 場所：スカイトワー西東京 タワープラザ地下1階会議室 ※雨天決行
 （西武線「花小金井駅」北口下車 徒歩20分 または西武線「田無駅」北口よりバスあり）
 申込：FAX：042-322-7478
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

参加費
無料

14:45～ 西東京糖尿病療養指導士による「糖尿病クイズラリー」にも参加可能です。

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第66回例会

申込不要

テーマ：『β細胞の七変化～糖尿病の新しいみかた～』
 開催日：2019年11月16日（土）15:30～18:50
 場所：杏林大学 井の頭キャンパスF309（JR中央線「三鷹駅」南口よりバス15分 ほか）
 参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位
 ☆日糖協療養指導医取得のための講習会

参加費
無料

◆ 第13回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

申込必要

テーマ：『いまだから 糖尿病運動療法のココが知りたい！』
 開催日：2019年11月17日（日）8:30～17:00
 場所：北里大学薬学部（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）
 参加費：当法人会員 6,000円 / 一般 8,000円
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/7締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第18回研修会

申込必要

テーマ：『SAP/Libreを用いたCSII症例検討～多職種連携・療養指導をどうするか？』
 開催日：2019年12月6日（金）19:20～21:00
 場所：立川市女性総合センターアイム・第3学習室（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩7分）
 参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/26締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

◆ 第20回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

申込不要

テーマ：『ビタミンD・骨粗鬆症と糖尿病』
 開催日：2019年12月21日（土）15:00～17:55
 場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）
 参加費：医師 1,000円 / 医師以外 無料
 問合せ：サノフィ（株）（担当：渡辺） TEL：080-6627-7802
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中
 ☆日本医師会生涯教育制度（カリキュラムコード：73、76、77、82）：2単位4カリキュラム申請中

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



7月の長梅雨、8月の猛暑～酷暑！！、9月の台風直撃を経て、10月になりました。どうやら一難去ってまた一難のようで、インフルエンザ感染が猛威をふるい始めているようです。気候や台風とは違い、うがい、手洗い、人混みを避けるなど防御ができます。そして何ととっても最強の防御である予防接種があります！免疫力が弱っている糖尿病患者さんは特に予防接種を受けましょう！（広報委員 川越 宣明）